

令和 6 年度 第 2 回市川町総合戦略会議録

会議名	第 2 回市川町総合戦略会議
開催日時	令和 7 年 3 月 5 日(水) 10 時 00 分～12 時 05 分
開催場所	市川町役場 4 階 相談室
出席者	委員：小野康裕、村田敏朗、村上昭人、福山雅章、岩木和子、石川伸也、 村上和男、小西正弘、濱田崇広、喜田美咲、藤田正広、長尾克洋 町 長：津田町長、尾花副町長、山下教育長、近藤地域振興課長、 内藤企画政策課長、木村副課長
会議の議題	1 開会 2 あいさつ 3 協議 （１）令和 6 年度実施事業進捗状況及び令和 7 年度事業計画について （２）まちづくり町民アンケート調査結果等について （３）その他 4 閉会
会議資料	【事前配布分】 ・第 2 回総合戦略会議次第 ・令和 6 年度市川町総合戦略会議委員名簿 ・第 2 期市川町総合戦略進捗管理【R2-R7】 ・まちづくりに関するアンケート票 ・まちづくりに関するアンケート調査結果報告書 ・転出者アンケート集計（令和 2 年度～令和 5 年度） ・転出者アンケート、町民アンケート結果 【当日配布分】 ・座席表 ・コミュニティバス時刻表改正広報記事 ・人口流出に関する神戸新聞記事 ・令和 7 年度次期総合戦略スケジュール ・市川町 PR パンフレット（クリアファイル） ・暮らしすいちかわパンフレット
あいさつ 町長	2 あいさつ 皆さんこんにちは。本日は大変お忙しい中、令和 6 年度第 2 回市川町総合戦略会議にお集まりいただきありがとうございます。本日は令和 6 年度実施事業進捗状況及び令和 7 年度事業計画等について協議をしていただきます。また、委員の立場から今後の問題点やさまざまな提言または助言をいただき、それを参考にしながら次期総合戦略の策定を進めていきたいと思いますので本日はよろしくお願いします。

事務局	ありがとうございました。それではまず欠席者の報告をさせていただきます。英語講師翻訳家の吉田花梨様と坂戸営農組合の山下彰彦様におかれましては、ご欠席ということでお聞きしておりますのでご報告させていただきます。 本日は、令和6年度～7年度の2年間、総合計画と総合戦略の改訂業務を委託しています、株式会社ぎょうせいの竹本さんと宮城さんが同席しています。 それでは続きまして、会議次第3の協議に入りたいと思いますここからの進行は小野委員長にお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。
協議事項	3 協議 (1) 令和6年度実施事業進捗状況及び令和7年度事業計画について (2) まちづくり町民アンケート調査結果等について (3) その他
委員長	協議事項1番の(1) 令和6年度実施事業進捗状況及び令和7年度事業計画について事務局から説明をお願いします。
事務局	令和6年度実施事業進捗状況及び令和7年度事業計画について説明
委員長	はい、ありがとうございます。
委員	先ほどの説明に対して何か意見、質問等ございますか。 観光協会を解散するとありますが、基本的なイメージとして神河町で移住定住センターがありますが、そこで実施されているような業務とプラス観光協会の今までの業務を一緒に行うというようなイメージでよろしいでしょうか。 それと一般社団法人に町の方から補助がいくらか出されると思いますが、今までの観光協会の補助金より抑えられるのか。 それから2番のアイアンハート号ですが、地域振興課で色々なところに行かれて、町のPRをされていますが、今後の観光協会と一緒に連携して事業をしていくのか、どのように考えているのか教えていただきたい。
事務局	神河町さんが今取り組まれているような移住交流センターのような形で、村上委員が言われた通りです。それプラス神河町は観光協会が別にありますが、市川町では観光協会を一緒にして観光業務ということで、同じ社団法人に委託をしていきたいと思っています。町の経費としましては委託金になります。 町からの補助というのはありませんが、今の観光交流センターの場所にかかる経費は町が支払いをしていきたいと考えています。
委員	今まで観光協会は団体として補助金は当然出ていたと思いますが、今度からは補助金は無くなるわけですか。ということは、そこが自立して運営をやっているかないといけないということですね。
事務局	観光に関する業務や移住定住に関する業務、あと空き家業務に関する委託は今までと同じようにしますので予算的にはそんなに変わらないと思います。
委員長	2番目の質問について、地域振興課長お願いします。
地域振興課長	社団法人が設立されると今までよりも幅広く動けるのかなと思います。観光協会はこれまで女性スタッフが2人だけでしたので、なかなか幅広い活動ができ

	ていなかったのですが、社団法人にすることによって、どんどん町外に向けての発信ができると思います。また、アイアンハート号も一緒に活動していただくように考えていますし、今までも何度か一緒に行っていていますが、直近の予定でしたら 4 月に滋賀県草津市の行政とのコラボイベントがありますので、観光協会も一緒に行くことになっています。社団法人を立ち上げて、いきなり全てを社会法人に委託しても難しいと思います。考えているのは、このトラック事業も社団法人の方で一緒にまとめてできれば、いろんな販売もできるので町では特産品等を販売することができませんので、社団法人であれば収益を見込んだ販売等も可能になってきますし、トラックの貸し出しについても収益を見込めるものなので、一緒に統合できればと考えています。具体的な時期については、まだ考えていません。
委員	アイアンハート号については、私もいろいろなイベントでお手伝いさせていただくことあるのですが、販売については規制があって、なかなか売りたいけど売れないというようなところがありましたが、今後、販売もできれば販路も開けると思っていますので、ぜひそのような形で進めていただけたらと思います。
委員長 委員	他にご質問、ご意見ありますか。
事務局	コミュニティバスの件ですが、増便になると説明があったのですが、ドライバーの人材確保と時刻表については電車との接続時間等については学生の方が学校に間に合うかななどの調査をしたのか。
事務局	コミュニティバスについては高齢者向けのバスになりますので、あくまでも神崎病院行きがメインになります。高齢者向けのバスを一部利用した形で通勤通学に利用できないかという事を第一に考えたので、まずは朝の甘地駅の時刻に合わせる事を考えました。姫路方面の高校に行かれる学生は姫路行き 7 時 11 分発と 6 時 52 分発の時刻が多いのですが、6 時 52 分に乗車する人数よりも 7 時 11 分に乗車する高校生の方が多かったのと寺前行きが 7 時 11 分発で同じ時刻だったのでこの時間帯に合わせました。帰りの便については授業が終わって帰ってくる時間に合わせました。朝一と夕方の便については電車の発車時刻とバスの時刻を調整しましたが、他の時間帯についてはあまり調整や変更はしていません。
委員	他の市町でもありましたが通学生をバスに乗せると他のお客さんが乗れない、乗り切らないっていう問題もありました。そういったところも当然考えられているとは思いますが、学生で満車になって乗れないといった問題はないでしょうか。
事務局	瀬加路線は 33 人乗りのバス、浅野路線は 14 人乗りのバスになっています。朝の 1 便目の時間帯は高齢者の方が通院には使われない時間帯になりますので主に学生、通勤者が対象になります。想定している人数はこの範囲内かなと考えています。 それから運転手さんの確保の問題ですが、これまでは運転士さん一人体制でしたが、この時刻表になりますと実質 1.5 人必要になります。去年の 9 月頃から業者と調整をしてきましたので、この 4 月から実質 1.5 人の運転手を確保して、この時刻表で運行できることになりました。

委員長	実施をしていく中で色々と問題等が出てくるかもしれませんが、運行していく中で調整を取りながら進めることになると思います。他に何か。
委員長	事業番号 14 番の町の遊休地の利活用についてですが、例えば瀬加郵便局の道を挟んだ空き地については町が買収されましたか。
副町長	町は買収していないと思います。(後で町に寄付をされていたと報告)
副委員長	例えば、このような土地を手放すことによって、また建物が建設されると見通しが悪くなり事故に繋がる恐れがあります。このような道路の角地については、できれば町で管理していただいて事故防止に繋げていただくか、何か対策をお願いしたいと思います。
	事業番号 20 番のふるさと意識、郷土愛の醸成で小学校での地域学習の推進ですが、市川町は山林面積が町面積の 8 割ぐらゐを占めている中山間地域です。ふるさと意識、郷土愛の醸成と言いながら、山があつても山を知らない、川があつても川の危険性を知らない子ども達が市川町だけじゃなく、他町を見ても全体的に多いと思います。
	田んぼあるけど、田んぼに入ったことがない、そういう実態を踏まえた上で川の自然体験や水生生物の観察体験を市川や岡部川でできないか。川に入って遊んだとか山に入って遊んだというような小さい時の思い出が、郷土愛につながると思います。小学校 5 年生になると自然学校がありますが、完全にプログラムが組まれたものですので本当の山というものを知ることができません。
	事故防止に繋げるためにも、何かそういう政策を考えていただきたいと思います。もうひとつは事業番号 36 番の経済的負担の軽減策の推進です。就学、入学時の体操服への 1 万円支給を継続して実施していますが、体操服や制服については、かつて私が勤めていた福崎東中学校では PTA が中心になって、制服のリサイクルを実施しています。学校の教室に制服を保存しておいて、入学時や進級時にそれを利用する仕組みですが、市川中学校も同じようなことをされているのか。学校と連携してリサイクル事業をすれば経済的負担の軽減にも繋がると私は思います。以上です。
委員長	要望も含めてですが、回答できますか。
教育長	ふるさと意識醸成のための取り組みですが、農業体験として田植え体験や稲刈り体験をして、収穫した餅米で餅つき大会をしたりしています。農作業に直接携わってない小学生に体験活動をして、お米を作る大変さ、お米のありがたさを感じられることを目的に実施しています。実施するにあたっては地域の老人クラブの方々にお手伝いをいただきながらやっています。
	あと本町はゴルフアイアン発祥の地ということで各小学校の 4 年生はアイアンの製造工場を見学し、実際に製造されている方々から自分たちのアイアンを作る過程とか技術を教えていただき、試打のできるどころでは試打をさせてもらいながらアイアンの打ち方を学んでいます。
	先ほどお話のありました川に入って水生生物観察については、かつて県民センターから指導員に来ていただいて環境体験事業の一環として活動をしたこともありましたが、今後そういった農業体験やゴルフ体験以外での体験事業ができるようであれば考えていきたいと思います。

副委員長	それから制服のリサイクルにつきましては、小学校も中学校も卒業生に強制ではありませんが、保護者の方の同意を得て、まだまだ着ることができる制服を残してもらっていますので、それらは活用をしています。 市川中学校は今年統合してから3年目になりますが、新しい制服に代わりましたので、これから徐々にリサイクルとして新しい制服も活用できるようになると思います。 サマースクールとかで町内の小学生たちに定員を設けて、山の体験学習や川の水生物を調べる体験とかを募集して、実際に川の中に入って川の怖さいうのも教えることが大事だと思いますね。事故防止に繋がるために、そういうことも含めて考えていただきたい。
地域振興課長	地域振興課で瀬加小学校に緑の少年団がありますが、年に何回か課外活動でいろんな体験も行っていますし、地域振興課で椎茸の植菌体験や木工教室をリフレッシュパーク市川で行っています。建設課ではため池教室を市川町内4地区で、各地区順番にため池の水を全部落として、そこに住んでいる生物について魚の名前や外来生物かどうかなどを業者に教えてもらうような学習をしています。
教育長	夏休み期間中は「1人で子どもたちだけでは川に行かないように」と夏休みを中心に全国的に指導をしています。夏休みになると水難事故で子どもさんが亡くなられたという事も聞きます。保護者の方と一緒にあればよいのですが、それでも事故がおきる場合がありますので、安全対策を十分にとった上で実施しないといけませんね。
副委員長 地域振興課長	安全対策を考えていただいて、実施をお願いしたいと思います。 教育長の地元の谷区は町内で唯一川のプールがあります。振古川の深だまりに梯子をつけてプールにしていますが、川に入って遊んでは駄目という時代に川のプールで泳ぐというのはとても良いことだと思います。 あと上瀬加の郵便局の横の土地の件は寄付ですね。
委員	あそこは町道から県道に出るときに見にくい場所ですし、左折する場合に県道のセンターラインを越えないと左折ができない状態でしたが、今の空き地の状態であれば住民の方が安全に通行しやすいという意見は聞いています。
副町長	その前の県道西脇八千代市川線については改良計画を要望している路線になりますので、改良計画の中でその土地がどのように必要になるかわかりませんが、設計の中で有効な形で利用できればと考えます。
委員	先ほど藤田副委員長が言われたように何か建物が建ってしまうと見通しがすごく不便になってしまうので、町等で管理していただければありがたいと思います。
委員長	要望事項ですから後で確認をしていただきたいと思います。 先ほどの質問の制服のところですが、商工会の勉強会の中でフランチャイズの「さくらや」という企業が福崎町等でされていますが、お母さん方は全部アプリを使って検索して、そこでリユースされます。ランドセルも服も全部相当な範囲のものを扱っています。民間がされているので行政がここに関わるのはどうかなという思いもあります。以上、情報提供です。

企画政策課長	他に何かありますか。 藤田副委員長が言われた町内の資源を生かしてのところですが、自然を生かした体験等はしているのですが、それに対して危険さをきちんと知らせて、それを危険防止に繋げていけばよいのではないかと、そういう提案でよろしいですか。
副委員長	小学校での地域学習の推進の中に自然体験学習を町で企画していただけたらと思います。サマースクールの中でそのような体験学習を盛り込んでいただけたら、ふるさと意識の醸成に繋がっていくのではないかと考えます。 町内の小学校も子どもの人数が減ってきて統廃合も協議されている状況の中で、1校に統合されてしまうと益々ふるさと学習や郷土愛の醸成が難しくなるのではないかと思います。
委員長 委員	よろしいですか。このあたりは難しい問題ですね。他に何かありますか。 事業番号 39 番の甘地駅の駅舎の利用についてですが、電気設備が撤去されるということですが、実際どのような流れになっていますか。電気設備が撤去されるという事は駅の中の電気が一切使えなくなるということですか。
企画政策課長	そういう意味ではなくて、駅舎に設置してある重要設備の事なのですが、線路の切り替えを行うための信号を出したりする設備が甘地駅の駅舎の中にあります。それが駅舎の3分の1程度占拠していて、以前はそれを残してもらわないといけないということでしたが、もう全部撤去しても構わないという事がこの前の協議で確認が取れました。
委員長	私も JR と話をしたときに、今まで信号の切り替えとかは全部有線でやっていたものは無線に変わります。電気設備はもういらないという話です。 だから甘地駅、鶴居駅の駅舎については今までよりも簡単にお渡しすることができるといことです。兵庫支社長の答えです。
委員長 委員	他にありませんか。 事業番号 15 番ですが空き家を活用した移住対策に取り組まれていると思います。先ほど出生数が 27 名とか 28 名という話もありましたが、出生率がいくら上がっても分母が少ないと人口減という流れは食い止められないと思います。少しでもそれを食い止めるためには分母を増やす必要があります。 出生率が例えば 2.0 になっても大して増えません。それを目指すよりも分母を増やす、そのためにこの移住対策というのは非常に大事だと思っています。 兵庫県全体で言うと確かに若い女性の転出が多いというのは、県全体としての大きな課題なのですが、兵庫県の特徴で良いところはファミリー層の転入が兵庫県全体では割と多いという事です。そういう傾向にもできるだけ乗っかっていただいてこの移住対策をしっかり進めていただきたいと思います。空き家活用支援にも取り組まれていますし、移住者も少しずつ増えているとは思いますが、町内の人に PR をしても移住者が増えるわけではないので、いかに外のエリアの方に PR をするのか、そこをしっかりと知恵を絞って取り組んでいただきたいと思います。 それからもう一点、事業番号 14 番の廃校の利活用のプロポーザルが行われたという話が出ました。最近丹波の廃校活用事例を見に行く機会がありました

	が、ひとつは小学校の教室を改修して、大学や高校のサークルとか部活動の合宿に利用するという事で最大 50 人ほど受け入れて、宿泊できるような施設に改修して、宿泊施設として運用している事例があります。もうひとつは敷地が結構ありますので、そこに小さなコテージを作って、プライベート空間のある宿泊施設とコテージの真ん中にバーベキューとかサウナ、集会ができるような公共スペースを作って宿泊をさせているという事例でした。 どちらも地域が寂しくなるだけではなくて、その廃校を利活用して、地域の活性化に繋がっているという例だったと思います。市川町内でも今回のケース以外にもいろいろと廃校の話が出てきているかもしれませんが、できるだけ早い段階でこの活性化の策を進めていけたら地域の活性化に繋がるのではないかと感じましたので紹介をさせていただきました。
委員長 副町長	ありがとうございます。それに対して何かありますか。 兵庫県への移住でファミリー層の定住が多いという事を聞かせていただきましたが、非常に心強い言葉だなと思いました。兵庫県のど真ん中の市川町ですが位置的にも一番真ん中ですので一番呼び込みやすい、土地も比較のお求めやすい金額になっていますので、移住される方にはもってこいの場所かなと思っています。緑も多いし、空気も綺麗ということのを売りに、どんどん市川町を発信していきたいと思っています。
企画政策課長	その中で観光から移住定住に結びつけるという一つの法人を立ち上げることで、そのようなこともどんどんアピールして行って、市川ファンを増やして移住者をどんどん引き込んでいきたいと考えています。
町長	県でも移住定住に関する取り組みをされていますので、市川町としても積極的に参加して一緒に取り組みたいと思っています。 廃校の関係ですが市川町でも将来の子どもの数の推移をふまえて小学校の統廃合を考えています。現在 4 校ありますが昨年度の出生数が 27 名、今年度は現在の段階で 28 名、過去 6 年間は約 40 名以下になっています。そのような現状から町民の皆さんの理解と保護者の理解を得て決めていきたいのですが、10 年以内には統合せざるを得ない状況です。4 校の小学校が一つになるということですので 3 校が廃校になります。当然その利活用も早めに検討していきたいと思いますが、センター長が言われたような丹波の事例も参考にしながら検討していきたいし、また、地域おこしのために企業誘致等もできればと考えています。5 年、10 年はすぐに来ますので、早い段階で廃校利用についても考えていきたいと思っています。
委員長	学校の問題は本当に難しいですが地域にとって学校はランドマークなので、その利活用がうまくいくか、いかないかで地域のモチベーションがずいぶん変わってくると思います。また、移住定住と観光と産業とを横串で刺してやっていると、バラバラでは成果が生まれにくいと思いますが、市川町では他町にたく横串が刺させるのがアイアンハート号かなと思います。この使い方を見直し、利活用をどこまでやっていくのかをもう少し検討する必要があるような気がします。市川町は独特の横串を刺せるツールを既に持っていますので、検討をお願いしたいと思います。

委員	最後に何か教育関係で何かありませんか。 先日子育て会議に出席した時に、町外からの園児 38 名を含めての人数が割り出されていましたが、本当に危機的な状況です。令和元年にこども園になりましたが、私のデータでは町外からの 38 名も含めて 227 名になっていますが、0 歳児の入園希望が非常に多いです。2 年から 3 年間の育児休暇を取らないで 0 歳から 4 月に入園する子どもが 5 名です。約 10 名の子どもが途中入所しますが、0 歳児 3 名に対して 1 人の保育士が必要です。0 歳児の入園を希望しても希望した園に入園できない場合があるようです。事務局の教育委員会に尋ねたらファミリーで年長さんと 0 歳児の場合は、できるだけ同じ園に入れたいけれど 0 歳児 1 人だけの場合は、別の園へ行ってもらい可能性が大きいということを知りました。今後、市川町としてできるだけ働くお母さんの立場に立って、受け入れ態勢について配慮していただきたいと思います。
委員長	子育ては非常に重要なポイントになってくると思いますのでよろしくお願いします。私も健康福祉課の計画策定委員会に出席した時に「市川町として何を重点項目にするのですか」と質問をしたら重点項目は全部です、と回答がありました。ちょっとよくわからないですね。やはり市川町としての方針が 5 年後、10 年後に何を目標しているのかわからない、というのがあります。 町民が市川町に定住しない一つの原因でもあるのかなと思います。 続きまして協議事項 2 番のまちづくり町民アンケート調査結果等について、事務局から説明をお願いします。
事務局 委員長	まちづくりアンケート調査結果等について説明 はい、ありがとうございました。 今アンケートについて説明をいただきましたが令和 7 年度の総合戦略に向けて何かご意見ありますか。
委員 事務局 委員	コミバスは週に 2 日運行ですか。土日は運行していないのですか。 週 5 日の平日毎日運行ですので、土日は運行していません。 例えば移住定住センターが観光協会の場所にできると、土日に相談に来られる方が増えると思うのですが、電車に乗って相談に来られる方の交通手段とかは考えられていますか。田舎暮らしをしたい方は移住相談に来られるときに、どのような公共交通機関があるのか、を確認しながら相談に来るという話も聞きますので、駅から繋がるルートがあれば良いなと思います。 高齢者向けのタクシー利用助成事業の利用状況を教えてください。
事務局	まず土日運行ですが昨年の 10 月から平日毎日運行にしたところですので、一度には出来ないのと、バス会社の運転手の確保が厳しいと聞いています。 次に 6 年度の新規事業で高齢者向けのタクシー利用助成事業ですが 65 歳以上で運転免許を持っていない方で、非課税の方に 1 万円のタクシー券を助成するというものですが、市川町でタクシーの利用が習慣化していないのと、家の近くまでタクシーが来ると目立ってしまうという声もあって、利用が少ないのが現状です。対象者は多いのですが、申請数は 2 月末現在で約 120 人です。
委員 事務局	タクシー会社は何社ですか。 神崎交通ほか数社あります。

委員 事務局 委員長	移住定住センターまでの送迎方法は何か別で検討されていますか。 送迎までは考えていません。 昔、駅前のレンタサイクルの項目があったのですが消えてしまっていますね。我々は田舎に住んでいるので観光交流センター（移住定住センター）まで甘地駅から遠いという感覚ですが、都市部の方はあそこまで歩くのは普通だと思いますよ。レンタサイクル屋が駅前にあれば十分対応できると思います。田舎ですと近くに行く時も全部車ですが、都市部の方は駅から結構歩きますので、誰の感覚で判断するのが必要ではないかと思います。これからの駅利用推進も含めて検討をお願いします。
委員	子育て支援の部分ですが、市川町の子育て支援センターは場所が広いし、綺麗ですし、雨の日でも親子で遊べる遊具も多いので町外の方からもとても人気があります。子育て支援は市川町も色々されていますが、現物支給による助成を以前にも提言させてもらったのですが、オムツを1歳まで助成するとか、お米の補助の話もよく聞きます。アンケートにもありましたが子育て支援に関する助成事業についてはご存知ない方が結構多いと感じました。
教育長	それと給食の中学生無償化を来年度からされるのですが、地産地消でいうと野菜類は市川町の各農家から仕入れていただけるのですが、お米は町内だけでは足りなくて、近隣の市町のものも仕入れていると聞いてびっくりしました。各町内の農家に米の打診をされたのかどうか教えていただきたいです。
委員長	給食に使う米については兵庫県全体で取り扱っています。なぜかいうと継続的に安定的に仕入れることが必要ですので、社にあるセンターと委託契約をして仕入れています。もちろん町内産も入っていますが、どこの場所の物を使うというような指定はしていません。市川町だけではなくて兵庫県全部同じです。
委員	子育て支援に関しては来年から不満が高まるという気がします。なぜなら神河町では図書館と併設したきれいな公園ができますので、市川町民としては不満がまた高まるのかなという懸念はありますね。
委員	それから小学校が統合されると廃校ができますが、廃校利用の取り組みについて、こども園2園を1園にして東こども園一本化になると西こども園が廃園になります。西こども園はとていい環境の施設ですので、跡地をどうするのかについても早めに検討する必要があると思います。
委員	私は姫路の障害者施設に勤務しているのですが、障害者の方の対応と発達障害の子どもが今増えているので、そのような方の居場所事業が増えてきています。居場所事業は福崎や姫路でもやっているのですが、そういった方たちと共存共栄できるような社会を作っていけるような政策もぜひ検討していただきたいと思います。 私は90年くらい前に建った古民家に10年前から住んでいるのですが、200坪ある家を1万円で借りています。古民家に住んで何が大変かというと草刈りが一番大変です。田舎だと軽トラや草刈り機を持っていて当然なのですが、私は持っていませんので草刈りがとても大変です。これから移住者が新たに来たときに有料でも構わないので何か草刈り等のサービスがあれば良いと思います。あと古民家に10年も住んでいるとボロボロになってくるので、古民家を

委員長 企画政策課長	維持管理するための補修助成施策について検討いただきたいと思います。 要望ととらえてよろしいですか。他に何かありますか。
委員長	社団法人で考えている中で定住促進もありますので、移住して終わりではなくて、定住した後のことも今後検討していきたいと思います。 神戸新聞でも取り上げていましたが、ドイツ人とポーランド人の方がサイクリングで近平に寄って来たのですが、福崎町から市川町に入った瞬間に空気感が変わって、ものすごく魅力的だったと言われていました。ドイツ人の方は写真家で安倍元首相の遺影を撮られた方です。市川町から北部は海外に向けてアピール度が高いと言われていました。我々の感覚と違うので、もっといろいろなものを情報発信して田舎を堂々と田舎として売り出した方が価値を見つけ出せるのではないかなと思います。人口が減ることは決して悪いことではないという捉え方で施策を考えていった方が良いのかなと思います。 商工業のところですが優良企業の誘致とか、農林水産業や観光業連携も出てくるのですが、商工会の立場から言うと優良企業の誘致は当然必要ですし要望が高いので、ぜひとも進めてもらいたいです。しかし、最近は製造業を誘致すると、ほとんどの従業員が外国人というパターンが多いですから、これが果たして地域のためになるのかどうかということも、誘致先も含めて検討していかないといけないのではないのでしょうか。商工会には370数社加入いただいておりますが、インボイスが始まってから一気に廃業に向かっていますので、200社を切ってくるのは目に見えています。アンケートでは商工業者だけでイベントをやってほしいと書いてありましたが、市川ペイにしてもほとんどがマックスバリュやゴダイ、ダイソーで使われているのが現状ですから、町内の業者育成をどのようにしていくのかも今後考えていかななくてはけません。
委員	他に何かありませんか。 アンケートですが、紙式とネット回答もあったようですがネットで回答した方は何人くらいいましたか。
事務局	45人だったと思います。
委員	アンケートでも若い人の回答が少ないので若い人の意見をもっと吸い上げるような事を考えていただきたいと思います。難しいかもしれませんが、例えばこの会議にも若い人が参加して意見を聞くようなことができないか。若い人の発信力は凄いですし、若い人の意見をまずは耳で聞くというのが大事なのではないかと思います。あとコミバスは自治体が運営するというのが一般的ですが、企業と連携して何かしていることはないのでしょうか。例えばスーパーの駐車場をバス停に使用すると、買い物をして、バスも待てて、風雨をしのげるような両者ウィンウィンの関係を企業と連携して行っている事例はありますか。
事務局	買い物バスはマックスバリュの入口の前に停まりますが、コミュニティバスは道路沿いしか停まらないので、今のところ買い物バスが店舗の前に横付けするぐらいです。当然神崎病院には玄関の前のロータリーまで行きますが、他はまだ企業とのタイアップというのは今のところありません。 若者の意見ですが、まちづくりアンケートは町民とアンケート内容は少し異なりますが市川中学生全員にも中学生アンケートを実施しています。結果について

委員長	ては町のホームページに公開していますので後日ご覧ください。 コミュニティバスでマックスバリュ前のバス停留所ですが、歩道の上でいつも待っている方がおられますが、歩行の邪魔にならない程度で屋根をつけられないでしょうか。雨の降る日も暑い日もあそこで待つのは大変なので何か対策をお願いします。
委員長 委員	他に何かありますか。 アンケート調査結果報告書の 27 ページのところですが、町に関する情報の入手先というアンケートがあります。結果要点見ると町の広報紙が約 90%、一方でインターネットや SNS は 20%とか 14%とか低い数字になっています。現状として市川町は紙媒体の広報紙がすごく皆さんに周知されているという事は間違いないと思うのですが、今後どうなっていくのかを考えていく必要があるのではないかと思います。 28 ページの町の広報紙の間 3 の年齢のところに 19 歳以下から 80 歳以上まで年齢ごとに割合が出ています。多くの若い方が広報紙を見ている現状に驚きました。兵庫県では「県民だよりひょうご」という県の広報紙があるのですが、広報紙をいつまで紙でやるべきなのかを議論したことがあります。その時にいろいろと調べましたが、若い世代は広報紙を見る割合は高くはないですね。広報紙で情報を得ている割合が全県で見ると若い世代はもっと低いのですが、市川町は総じて高いという特徴的な数字を示しています。ただ全県で見ても高齢者はやはり紙の方が多いですね。 もう一つ見ていただきたいのは、右から三つ目の SNS からの情報入手です。19 歳以下でも 52%を超えています。大体 40 代ぐらいまでは割合が高くなっている、今後の傾向としては SNS が増えてきます。これからどういう傾向になるかという、紙を求める割合は若い人ほど少なくなっていくし、SNS を求める人は若い人ほど多くなっていきます。今の時代ですから高齢者の方も SNS を使い始めていますし、全県で見たらもっと高齢者の方は使っています。 そういう現状を考えると、今後の情報発信における政策の方向性をしっかりと考える必要があると思います。
委員長 委員	よろしいですか。 今の情報発信についてですが、市川高校の生徒募集でいかに保護者や生徒に学校の様子を伝えるかで、戦略を重ねた結果、やはり SNS が必要であるということになりました。本校の公式インスタグラムでフォロワーが今 2 万人に到達しました。この 2 万人というのは高校のインスタグラムのフォロワーとしてはとても多い数字なのですが、それが今年度の出願者数にも直結した結果、今年度は 135 名のプラスになりました。生徒数がどんどん減っている中で、近隣の私学の中でこれだけ増えた学校はありません。やはり SNS の活用というのは、これから必須になってくると思います。 今懸念している内容としては、中学校の部活動の地域移行があります。もう既に神戸市や姫路市などは地域でやるということを宣言して、部活動が中学校で出来なくなると周知されています。大きな都市であればそこに受け皿があって指導者がいるから出来るのですが、やはり郡部になると、そういう受け皿を作

委員長 町長	ることは大変厳しいのが現状です。本校は私学として地域移行にどう関わっていけるのか、今具体的には柔道部やバレー部が中学生や小学生と一緒に練習をする機会を作りながら、どういう貢献ができるのかを考えています。本当に子育てをしやすい環境作りという面においては、中学校の部活動の地域移行というのは大きなインパクトがあるのではないかと思います。 地域移行に関して何かありますか。 令和8年から地域移行が始まります。既に神戸市は来年2月から完全に地域移行しますし、姫路市の一部も同じように進めています。ただ指導者の問題、クラブの設立の問題、お金の問題等たくさんあります。市川町のように財政が厳しい町で、また人口減少が大きい町で、この部活動のクラブを作って維持していくということは本当に大変なことだと思っています。
副町長	私は令和8年度まで今の中学校の部活を継続していきたいと思っています。なぜかというとし川町の場合はスクールバス通学が多いので学校が終わってから一旦家に帰って、またクラブへ連れていくのは親の負担がすごく大きいです。また、クラブ活動になると1ヶ月に約1万円の活動費がかかります。そうになるとさらに親の負担が増えてきます。私としては、できる限りスポーツ難民を作りたくないという思いですので、学校で部活が継続できるようにお願いをしているところです。将来的に誰もが中学生で部活ができるように考えていきたいです。例えば中学校で学校の先生や外部の指導者にお金を払って1時間程度学校で部活を行う、または近くの市川高校に町から助成をして協力をしていただく、その場合指導者の確保もできると思いますので検討していきたいと考えます。
委員長 事務局	市川高校の生徒には地域探訪の授業で市川町のことをいろいろと研究していただいております。市川高校はSNS等でテレビに出演され、佐野先生については、まちづくりのことに尽力されて表彰を受けられました。本当にありがたいと思っています。インスタグラムについては若い方の発想で非常に楽しく拝見させていただきました。生徒のコメントもありますので、高校の雰囲気がすごく伝わってきました。市川町でも町の情報をどんどん発信することによって、町の雰囲気がわかってもらえますし、それを全国の方に見ていただいて、市川町がどんな町かわかってもらうためにもSNSを利用した情報発信が非常に大事だと思っています。 続いて協議事項の3番その他について事務局お願いします。 令和7年度次期総合戦略スケジュールについて説明 最後に本日欠席の吉田委員から本日の会議にメールでご意見を頂いていますので朗読させていただきます。 様々な課題はありますが、まずは市川町に住む人がこの町を愛し、魅力を感じ、他の人に伝えたいことが第1優先かと思っています。移住者を呼ぶにしても、町内の人不平不満ばかりでは、来る人も気分が悪くなります。そして、町の活力になるのは若い世代なので、そちらにもう少し重きを置き、若い世代がワクワクする町にすることが先決だと思います。 人口減少はすぐに止めることは難しいと思いますので、人口減少を踏まえた上

	で町の運営にイノベーションをかけ、無駄な部分は削ぎ、柔軟に対応していくことが大切だと思います。現に活気のある町から学び、客観的に比較し、改善点を定めるのももちろん大切ですが、周りでされていないものも同時に考える必要があると思います。他町に頼らなくてもいい、独立した町を目指せばいいのではないのでしょうか。 また、以前も同じようなことが発言されていましたが、市川町をどのような町にしたいのかというビジョンを、町長をはじめ、役場の職員、そして住民がしっかりと心の中で持つ必要があると思います。なんでもそうですが、まず「思い」において本気かどうかの確認が大切です。そして、希望と情熱溢れる目標設定がいます。現状だけを見て反応するのでは長い目で見て夢がないので、積極的に未来を作っていくという姿勢が各自にいないのではないのでしょうか。そういう意味では磨かれていないダイヤモンドの原石のようで、磨き様によっては素晴らしいものになる可能性を秘めていると思います。 最後は役場と町民両者が市川町を良くしようと思うことが大切で、互いに協力・応援しあって、シナジー（相乗効果）が起こる活動をしていくことが必要ではないのでしょうか。町民の力と応援無しでは町は良くなりません。 以上、時間の関係で全ては朗読できませんでしたが、意見を共有させていただきました。
小野委員長 企画政策課長	はい、私の与えられた時間がきましたので事務局にお返ししたいと思います。小野委員長どうもありがとうございました。それでは閉会にあたりまして藤田副委員長より閉会のご挨拶をお願いいたします。
藤田副委員長	今年度の進捗状況や令和7年度の実施概要について、非常に多くの提言をそれぞれの立場からいただき本当にありがとうございました。 私もアンケートを読ませていただきましたが、町民の皆さんが様々なご意見、要望を記載されていました。それらを我が町市川町に対する提言として真摯に我々受けとめて、これから取り組んでいかなくてはいけないと思いました。 年度末を迎えまして本当に皆さんお忙しい立場でありながら本会にご参加いただき、本当にありがとうございました。
企画政策課長	ありがとうございました。本日の会議については内容をまとめまして、後日会議録をお送りしますので、ご確認いただけたらと思います。 来年度はいよいよ次期総合戦略の策定をしていきます。総合戦略の方針を固め、これまでの成果・反省を踏まえて、事業の見直し及び新事業の提案等を行っていきますので、引き続きご協力のほどよろしくをお願いいたします。 本日はありがとうございました。